

救 急

(1) 救急業務の実施体制

救急業務は、昭和38年に法制化されて以来、年々その体制が整備され、現在では市民の生命、身体を守るうえで必要不可欠な行政サービスとして市民の生活に深く定着しています。

また、平成3年以降、救急救命士法の制定や高規格救急車の整備により救急業務の高度化が図られました。平成15年4月からは、市内4医療機関との連携によりメディカルコントロールシステムを導入しています。

平成31年4月1日現在、6署3分署13出張所1救急ステーションに26隊の救急隊（うち1隊は高度処置救急隊（ドクターカー））を設置しており、専任救急隊員214人（兼任救急隊員490人）と34台の高規格救急車（予備車8台を含む）で救急業務を実施しています。

(2) 救急出場件数及び搬送人員の状況

平成30年中における救急業務の実施状況は、救急出場件数52,538件（対前年2,722件増、対前年比5.5%増）、搬送人員46,591人（対前年2,468人増、対前年比5.6%増）となっています。

これは、1日あたり約143.9件、約10.0分に1回の割合で救急隊が出場し、市民の約23.3人に1人が救急隊によって搬送されたこととなります。

(3) 事故種別傷病程度別搬送人員

平成30年中の搬送人員46,591人の傷病程度別の状況をみると、死亡、重症、中等症が全体の62.4%、軽症の割合は37.6%となっています。

表-20 救急隊の配置状況 （平成31年4月1日現在）

署名称	救急隊数	救急隊設置署所
消防局	2隊	救急ステーション（うち1隊は高度処置救急隊）
青葉消防署	6隊	本署2隊、国見出張所、片平出張所2隊、荒巻出張所
宮城野消防署	5隊	本署、高砂分署、岩切出張所、鶴谷出張所、原町出張所
若林消防署	3隊	本署、六郷分署、河原町出張所
太白消防署	5隊	本署、長町出張所、中田出張所、八木山出張所、秋保出張所
泉消防署	3隊	本署、八乙女分署、根白石出張所
宮城消防署	2隊	本署、熊ヶ根出張所
合計	26隊	

表-21 救急隊員数等 （平成31年4月1日現在）

救急隊員数	専任救急隊員	214
	兼任救急隊員	490
	計（人）	704
救急隊員有資格者の内訳	救急科（250時間）修了者	543
	救急科救急標準課程（250時間）修了者	282
	救急Ⅰ課程（135時間）及び救急Ⅱ課程（115時間）修了者	44
	救急Ⅰ課程（135時間）のみ修了者	9
	計（人）	878
救急救命士配置状況	救急救命士有資格者（就業前実習未修了者除く）（人）	166
	各救急隊	119
	指令課	7
	救急課（救急ステーション救急隊を除く）	8
	その他（研修所派遣、各署日勤等）	32
計（人）	166	
救急車配置状況	各救急隊	25
	高度処置救急隊（ドクターカー）	1
	予備車（本署、救急ステーション及び管理課に各1台配置）	8
	計（台）	34

(4) 救急隊員に対する教育訓練

救急救命士が技術の維持と新しい知識の習得を図るため、医師による講義、シミュレーション実習、救急車同乗実習や病院実習などの生涯教育を平常勤務と切り離れた教育システムの中で毎年組織的に実施しています。

また、救急救命士が行える処置範囲は、飛躍的に拡大しており、①気管内チューブによる気道確保（気管挿管）、②アドレナリン（強心剤）の投与、③自己注射が可能なアドレナリン製剤の条件付き投与の他、平成26年には、④心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、⑤血糖測定とブドウ糖溶液の投与の2処置が更に追加され、これらの拡大処置を実施できる認定救命士を早期に養成するための特別教育を受講させるなど救急業務の高度化に対応するための取り組みも実施しています。

その他、救急救命士の業務との連携を図るため、救急救命士以外の救急隊員にも定期的な教育訓練を実施しています。

(5) メディカルコントロールシステム整備

平成15年4月から、市内4医療機関と連携し、メディカルコントロールシステムを運用しています。

(6) 市民に対する応急手当の普及啓発

市民の救命率向上を図るためには、救急隊が現場に到着するまでの間に、心肺機能停止（C P A）状態で倒れた人に対して、その場に居合わせた市民が心肺蘇生法を施すこと（バイスタンダーC P R）が極めて重要です。

仙台市では、平成16年度を初年度として市民20万人（5人に1人）の受講を目標とし、平成19年度に達成したところですが、その後もこれまでの取り組みを継承し、引続き毎年度2万人以上の受講を目標として、胸骨圧迫、人工呼吸及び自動体外式除細動器（A E D）の取扱いを主とした救命講習会を開催し、市民に対する応急手当の普及啓発を積極的に進めています。

平成24年度から、より気軽に応急手当が学べる「救命入門コース（90分）」、平成29年度には、主に小学校上学年を対象とした「救命入門コース（45分）」を設けています。

表-22 救急出場件数及び搬送人員の推移

区分	仙 台 市				全 国			
	出場件数	指数	搬送人員数	指数	出場件数	指数	搬送人員数	指数
平成17	39,193	100	35,706	100	5,280,428	100	4,958,363	100
平成18	38,787	99	35,003	98	5,240,478	99	4,895,328	99
平成19	39,464	101	35,548	100	5,293,403	100	4,905,585	99
平成20	37,512	96	33,415	94	5,100,370	97	4,681,447	94
平成21	37,863	97	33,140	93	5,125,936	97	4,686,045	95
平成22	42,052	107	36,312	102	5,467,620	104	4,982,512	100
平成23	46,394	118	40,086	112	5,711,102	108	5,185,313	105
平成24	45,226	115	38,688	108	5,805,701	110	5,252,827	106
平成25	45,671	117	39,511	111	5,918,939	112	5,348,623	108
平成26	47,184	120	40,813	114	5,988,377	113	5,408,635	109
平成27	48,065	123	41,371	116	6,054,815	115	5,478,370	110
平成28	48,363	123	42,701	120	6,210,082	118	5,620,889	113
平成29	49,816	127	44,123	124	6,342,096	120	5,735,915	116
平成30	52,538	134	46,591	130	6,605,166	125	5,960,202	120

※ 平成30年の全国値は速報値

また、応急手当について学べるホームページの開設や緊急時にも使えるスマートフォン用のアプリケーション「救命ナビ」（平成29年4月に病気やけがの緊急度を自ら判定できる機能「救急受診ガイド」を追加したほか、宮城県の#7119運用開始に伴い平成30年3月には「救急電話相談」を追加した）を公開するなど、応急手当の裾野の拡大に取り組んでいます。

(7) 仙台市救急ステーション

仙台市救急ステーションは、①ドクターカー運用の拠点としての機能、②間接的メディカルコントロール（事後検証、救急隊員教育、症例検討会）の拠点施設としての機能、③救急業務の高度化に適確に対応するため、救急業務全般を統括的に指導する救急課直轄の救急隊の活動拠点としての機能、これら3つの機能を併せ持つ施設です。

表-23 事故種別傷病程度別搬送人員

(平成30年中)

区分	計	死亡	重症	中等症	軽症	その他
急病	30,638	379	2,584	16,373	11,302	
転院搬送	5,666	1	1,179	4,165	321	
一般負傷	6,008	19	483	2,307	3,197	2
交通	3,143	7	93	881	2,162	
その他	1,136	30	73	517	516	
計	46,591	436	4,412	24,243	17,498	2



表-24 救急隊員に対する教育訓練の実績

(平成30年中)

教育訓練項目	人員(回数)
救急救命士養成(養成研修派遣)	7
宮城県消防学校救急救命士再教育講習派遣	6
宮城県消防学校救急科派遣	0
宮城県消防学校初任総合教育(救急科)	39
救急救命士継続教育プログラム(生涯教育)	137(2回)
救急ステーション実習(生涯教育・1ヵ月)	74
救急救命士就業前病院実習	9
東北救急医学会救急隊員部会(山形市)	20
日本臨床救急医学会(名古屋市)	4
全国救急隊員シンポジウム(高松市)	12
宮城県救急医療研究会(大河原町)	23
救急隊員研修会(活動研究会)	48
救急技術訓練	853(32回)
気管挿管病院実習	9
薬剤投与病院実習	9
宮城県消防学校救急救命士処置拡大講習	8

表-25 メディカルコントロールシステム整備

医療機関名	業務内容
東北大学病院	①指示, 指導・助言 ②事後検証(メディカルディレクター)
仙台市立病院	①指示, 指導・助言 ②病院実習 ③事後検証(メディカルコントロール・メイン)
仙台医療センター	①指示, 指導・助言 ②事後検証(メディカルコントロール・サブ)
仙台オープン病院	①指示, 指導・助言 ②事後検証(メディカルコントロール・サブ)

(8) PA連携（消防ポンプ車（Pumper）と救急車（Ambulance）の連携）運用

平成18年6月から、心肺機能停止傷病者が発生した場合に、救急車に加え最寄の消防署所から自動体外式除細動器（AED）などの救急資器材を積載した消防車等も出場させるPA連携を運用しています。

消防隊員等が早期に救命処置を行い、到着した救急隊の救急救命士が処置を引き継ぐことにより、救命率の一層の向上が期待されます。

(10) 全国消防長会救急委員会

平成29年4月から仙台市消防局長が全国53都市の消防長等で構成される全国消防長会救急委員会の委員長に委嘱されました。救急委員会では、救急関係法制事案の措置推進に関することや救急業務の制度及び体制の調査研究に関することなど、救急業務の諸問題の解決に向けた審議等を行っています。

(9) 応急手当協力事業所表示制度（杜の都ハートエイド）

平成21年9月9日の「救急の日」から、自動体外式除細動器（AED）を設置するとともに、応急手当を行うことができる人を配置し、応急手当に協力する意向を有する事業所等に対して「応急手当協力事業所」である旨の証票及びステッカーを交付し、広く市民に周知しています。

平成31年4月1日現在の登録事業所施設数は、1,191施設となっています。

表-26 救命講習の実施状況

（単位：人）

区分	平成6~平成20	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	累計
普通救命講習	214,928	22,038	20,151	15,283	20,651	18,864	21,698	20,858	21,188	21,446	21,543	418,648
上級救命講習	10,131	507	625	540	639	583	603	697	648	616	681	16,270
応急手当普及員講習	3,254	251	185	195	227	189	188	227	213	209	207	5,345
救命入門コース	-	-	-	-	1,647	3,947	4,482	3,972	4,947	4,285	4,601	27,881
合計	228,313	22,796	20,961	16,018	23,164	23,583	26,971	25,754	26,996	26,556	27,032	468,144

※「救命入門コース」は平成24年から